

令和 5 年 10 月 13 日

千葉県内科医会  
会 員 各 位

千葉県内科医会  
会長 中村 信

令和 5 年度千葉県内科医会中央集会  
(千葉県医師会医学会第 24 回学術大会 内科医会分科会)  
開催のお知らせ

拝啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度毎年秋に開催しております「千葉県内科医会中央集会」を別添プログラムの通り開催いたします。

今年度は、治療薬や画像診断などで大きく進歩している関節リウマチ診療と、社会生活にも影響を与えつつある AI の医療分野での利活用について、御高名な先生方にご講演をお願いいたしました（浜本先生は、本年 4 月の日本医学会総会でもご講演されておられます）。会員の皆様の日常診療に役立つ内容と存じます。抄録を添付いたしますのでご確認いただけますと幸いです。

なお、開催はハイブリッド形式で行います。下記参加方法をご確認の上、是非ご参加くださいようお願い申し上げます。

開催当日は WEB 視聴に関するお問い合わせに対応出来ませんのであらかじめご了承ください。

敬具

会場参加の方：

本年は会場が広くなりますので、参加人数は制限いたしません。会場での聴講を希望される方は事前申込不要ですので、当日直接会場にお越しください。

Web 視聴の方：

1. 下記 URL または右の QR コードから参加登録をお願いいたします。

【ご視聴登録 URL】

<https://onl.sc/CYFai4R>

2. ご登録されましたら視聴用 URL が配信されます。

3. 当日お時間になりましたら、視聴用 URL からアクセスしてご参加ください。



千葉県内科医会事務局 篠原・池口  
〒260-0026 千葉市中央区千葉港 4-1  
TEL : 043-239-5472 / FAX : 043-239-5461  
E-mail : naika@chiba.med.or.jp

## ～令和5年度千葉県内科医会中央集会～

日時：令和5年11月3日（金）9：00～11：30

場所：ホテルポートプラザちば 2階 ルビー / WEB配信

〒260-0026 千葉市中央区千葉港 8-5 TEL：043-247-7211

JR京葉線/千葉都市モノレール「千葉みなと駅」より徒歩1分

---

(09:00～09:05) 開会の辞：千葉県内科医会 副会長 福島 俊之  
挨拶：千葉県内科医会 会長 中村 信

(09:05～09:25) 日本臨床内科医会活動状況報告  
日本臨床内科医会 千葉県代議員 中村 信、武田 福治

(09:25～11:25) 講演

### 講演1 9：25～10：25

座長：かしわくま内科クリニック 院長 柏熊 大輔 先生

#### 『関節リウマチ診療の実際』

講師：千葉大学大学院医学研究院 アレルギー・臨床免疫学

医学部附属病院アレルギー・膠原病内科 教授 中島 裕史 先生

### 講演2 10：25～11：25

座長：吉岡医院 院長 吉岡 雅之 先生

#### 『医療とAI：医療分野におけるAI利活用の現況と今後の展望』

講師：国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所

医療AI研究開発分野 分野長 浜本 隆二 先生

(11:25～11:30) 閉会の辞：千葉県内科医会 監査委員 武田 福治

※本講演会において、下記の単位取得が可能です。

- ・日臨内指定研修講座5単位
- ・日医生涯教育講座単位2単位（CC：9.医療情報 61.関節痛）

共催：千葉県内科医会・千葉県医師会

## タイトル 関節リウマチ診療の実際

千葉大学大学院医学研究院 アレルギー・臨床免疫学

中島裕史

関節リウマチは多発性関節炎を主な病態とする自己免疫疾患であり、本邦で約70万人の患者が存在する。関節に不可逆的な構造的破壊を引き起こすのに加え、肺病変、消化管病変、血管炎など複数臓器に障害をきたすこともあり、適切な治療がなされなければ予後不良の疾患である。関節破壊は発症後早期に進行し、不可逆的な身体機能の低下を引き起こすため社会的な損失も大きい。そのため、関節リウマチにおいては、早期診断に基づく、迅速かつ適切な治療介入が不可欠である。

21世紀に入り、関節リウマチの治療はパラダイムシフトを迎えている。メトトレキサートに代表される従来の合成抗リウマチ薬(csDMARDs)に加え、TNF- $\alpha$ 、IL-6受容体、T細胞副刺激分子などを標的とする生物学的DMARDs(bDMARDs)、JAK阻害薬に代表される標的型合成DMARDs(tsDMARDs)が登場した。そしてこれらの薬剤を用いた治療の最適化により、関節リウマチ患者の多くにとって臨床的寛解は現実的な治療目標となった。関節エコー、関節MRIなど滑膜炎の病勢を的確に評価するための画像診断が大きく進歩したことも治療成績の向上に大きく寄与している。本講演では、関節リウマチの診断と治療における最近の進歩と、まだ満たされていないニーズについて概説するとともに、関節リウマチ治療における病診連携の重要性について議論したい。

## 医療と AI：医療分野における AI 利活用の現況と今後の展望

浜本 隆二

国立がん研究センター研究所医療 AI 研究開発分野・分野長

一般社団法人日本メディカル AI 学会・代表理事

近年深層学習を中核とした機械学習技術の進歩、計算機環境の向上、また大規模データの利活用が容易になってきたことなどの理由により、人工知能 (AI) への期待が高まっている。しかし長い AI 研究の歴史の中で、これまで AI 研究は順風満帆に推進されてきた訳ではなく、「AI ブーム」と呼ばれる AI に大きな期待が集まる時代と、その大きな期待に技術的に応えることができず、AI に対する失望感が広がる「AI 冬の時代」を繰り返してきた。一方、深層学習の登場をきっかけに始まった第 3 次 AI ブームの重要な点として、社会実装が進んでいるということが挙げられる。空港などのセキュリティに用いられる顔認証、自動翻訳・自動音声認識、また家電製品など、現在社会の幅広い分野で AI の利活用が進んでいる。医療分野も例外でなく、AI を利活用したプログラム医療機器の開発は世界中で進められており、また多くの製品が医療機器として承認を受け実臨床で用いられている。さらに、2017 年に深層学習技術の一つである Transformer というモデルが発表されたことにより、生成 AI 分野が飛躍的に進歩し、ChatGPT に代表されるよう、現在世界中で生成 AI の利活用が進んでおり、AI が我々の社会生活に大きな影響を与える時代が到来している。

本演者は、2016 年 1 月に閣議決定された第 5 期科学技術基本計画に基づき、日本においても国策として AI 技術開発を推進していくことが決定した直後に、国内に先駆ける形で大型の医療 AI プロジェクト「AI を活用した統合的ながん医療システムの開発」を研究代表として推進した (JST-CREST 事業の一つとして推進)。その後 2018 年より、内閣府の PRISM 事業が CREST にアドオンされ、内閣府の事業の一つとして医療 AI 研究開発を推進してきた。さらに、2023 年 6 月には内閣府の BRIDGE 事業「医療デジタルツインの発展に資するデジタル医療データバンク構想」の PM (研究総括) に就任し、大規模のデジタル医療データを二次利用することで、AI を利用したプログラム医療機器の開発などに取り組むプロジェクトを推進している。2016 年に CREST の研究代表としてプロジェクトを開始して以来、本演者は継続的に医療 AI 研究開発プロジェクトを推進してきており、年度的には現在既に 8 年度目に入っている。その間に内視鏡診断支援サポート AI の薬事承認、AI 開発支援プラットフォームの製品化、また AI 解析を志向した世界最大規模の肺がん統合データベースの構築、及び pan-negative 肺がんに対する新規治療標的の同定など、多くの重要な成果を発表してきた。そこで、本講演ではその経験を基に、医療分野における AI 利活用の現況と今後の展望についてご紹介する。